亀岡市の学力向上

亀岡の学力向上講座Ⅲ（第4回学力担当者会議） 2022.12 亀岡市教育委員会

日　時　　11 月 29 日（火）
講座の内容　実践発表（2校）、研究協議

◎指導助言
学力向上アドバイザー
京都教育大学大学院
連合教職員実践研究科
教授　佐古　清　氏

(1)詳徳中学校　教諭　松岡瑞久
「魅力と特色ある学校づくり」
～学力分析と学力向上～

- 学校づくり推進事業
  - スマートスクール全体構造
  - 亀岡市「確かな学力育成ビジョン」
- 生徒の伸びしろ
  - 校内研修
  - 全国学力・学習状況調査分析
- 魅力と特色ある学校づくり
  - 中学校ブロック合同研修会
  - 発表機会、プログラミング、自主勉

組織体制

亀岡市の課題
「確かな学力育成ビジョン」
「学力分析」

自校課題　共有

家庭学習　話し合い活動

生徒が主体的に学ぶ姿とは

生徒会と協働

ロボット

中学校ブロック小中合同研修会

ICT の活用

課題解決型協働学習

自主勉全校運動

発表機会を増やす

プログラミング

(2)詳徳小学校　教諭　西山研蔵
「言語活動を通して学び合う授業づくり」
～「学び」を楽しむ児童の育成を目指して～

- 課題分析
  - 児童アンケート
  - 課題共有→育てたいカ
- 研究主題の決定
  - 児童も教師も成長できる学校へ
- 各部の実践
  - 授業づくり部から
  - 言語環境部から
  - 基礎学力部から

組織体制

自校課題　共有

学びを楽しむ姿とは

重点教科　国語
→言語活動「書くこと」

単元デザイン

はがき新聞

チャレンジプリント

ミニ研修

朝日デジタル新聞購読

保護者へ図書貸出

＜参加者の感想＞

自分が学んだことを伝える。この取組は生徒にとって大きな力になる。プレゼンテーションが出来る、その力は義務教育が終了しても必要な力であると考えます。

どちらの学校にも共通していたことは教職員の雰囲気作り。一つ一つ丁寧に、そして研修を重ね、各グループ内で和気あいあいと学ぶことを大事にしていくことが、「全教職員一体となった取組につながる」と思いました。そのためには、主たる教員の見通しとやる気、この 2 点は欠かせないものと思います。本日、発表いただいた先生方にも自分達が軸となる！という思いを感じました。まずは、自分自身が学ぶ姿勢を忘れないことが大切だと改めて感じました。

何より児童生徒の課題から、出発することの大切さ、また、共有する雰囲気は、児童も教師も同じで、教師の学び合いが、児童の学び合いにつながることを改めて感じた。

同僚性や子どもたちが安心して学ぶことができる環境、そこを土台に研究や授業改善が行われていることがすごくいいことだと思う。「学力」と一言で表されている中には、各教科の知識・技能だけでなく、様々な資質・能力がある。その資質・能力に目を向け、よりよい教育を目指していることが市内の学校全てで共有できる機会があるのもすごく大事だと思いました。

大切にしたいことは、教職員が同じベクトルで共通認識のもと授業改善や学習に向かう雰囲気作りに取り組んでおられるということです。

他校の学力向上に関わる実践について話を聞き、刺激を受けた。特に心に残ったのは、「教職員一丸となって」研究を進めているということである。
佐古教授の話にもあったように、「取組は枝葉の部分で、研究を進める強い思いや目的は根の部分に当たる。」子どもにとって、そして教職員にとって価値ある研究を進めることができるように、今後も精進したい。